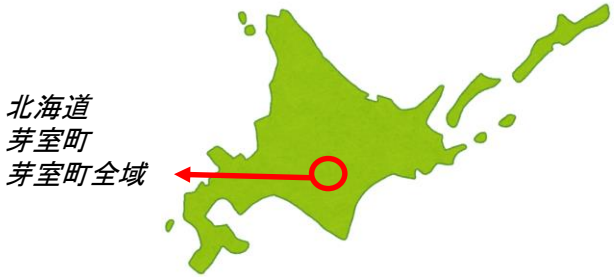
産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（28年度：計画作成主体：芽室町農業再生協議会）（北海道）

取組の概要

対象品目　　：キャベツ（産地面積：35ha）
主な取組主体：芽室町野菜出荷組合
成果目標　　：販売額の10%以上の増加
　　基準（H27年度）273,508円/10a
　　目標（H30年度）331,500円/10a
導入施設等　：生産支援事業（機械リース
　　（ハーベスター　２台））

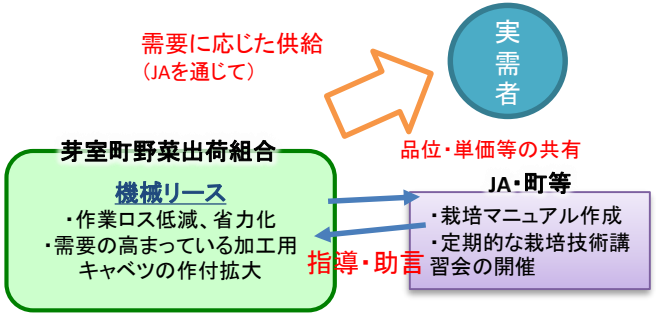


ポイント

【産地の課題及び取組方向】
　加工業務用に適している「寒玉キャベツ」は、実需者や市場での引き合いが高く、十分に供給が出来ない状況にある。一方、収益の高い作物への転換を希望する意欲的な担い手がいることから、これらの農家を「寒玉キャベツ」の作付けに転換させるとともに、収穫方法をこれまでの手作業から機械化することにより作業効率化及び人手不足の解消につながり、高位均質等による所得額の増加を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】
①担い手を「寒玉キャベツ」の作付けに転換させ、初期投資を軽減するための機械等の導入リース支援
②機械化による人手不足の解消及び作業負担の軽減

産地体制

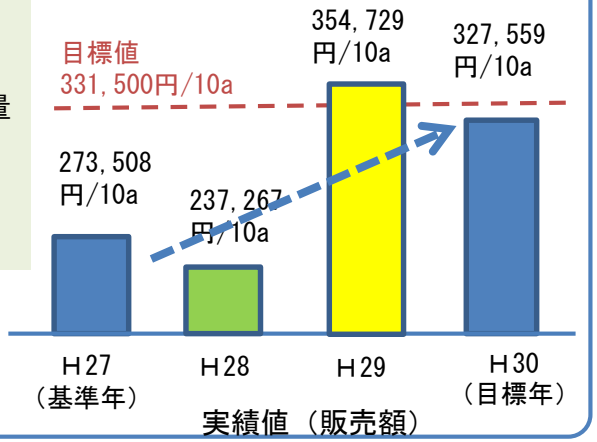


地域における独自の取組

〈主な取組〉
・一斉収穫に対応する 生育の斉一化や作業ロス低減ため、栽培管理におけるICT 技術の利用構築

取組成果

【事業実施による直接効果】
①リース支援による初期投資の節減効果
②機械導入による人手不足の解消
③選果基準・栽培マニュアルの設定による品質向上効果

【事業実施による間接効果】
①担い手による作付面積が拡大し、生産量が増加
②安定供給が可能になり、販売単価の安定が実現

販売額が19.8%増加
（達成率93.3%）